

平坦地の茶園で有機栽培に 有効な病害虫防除体系を構築しました

背景

有機栽培への移行期にある茶園では、病害虫の発生が増加するのが問題でした。

成果の内容

平坦地の隔離茶園で、有機JASで利用可能な農薬と耕種的防除を組み合わせることで、一番茶摘採後から有機栽培が可能な病害虫防除体系を構築しました。

有機栽培へ移行期間中の防除体系

時期	4月下旬	5月中旬	6月中旬		7月下旬	8月上旬			8月下旬		9月上旬	10月上旬	10月中旬	4月上旬
対象病害虫			炭疽病	ヒメノヨコドライ	炭疽病	ヒメノヨコドライ	炭疽病	チャモンハマカク	炭疽病	チャモンハマカク	カハダニワ	カハダニワ	カハダニワ	
(耕種的防除)		Zボルドー	(すそ刈り、浅刈り)	ムツシユボルドー	ムツシユボルドー	(すそ刈り、整枝)	ムツシユボルドー	エスマルクDF	ムツシユボルドー	スピノエースフロアブル	アタックオイル	ムツシユボルドー	アタックオイル	ミルベノツク乳剤



主要な病害虫例

慣行と同等に密度抑制

1年目

2年目

3年目

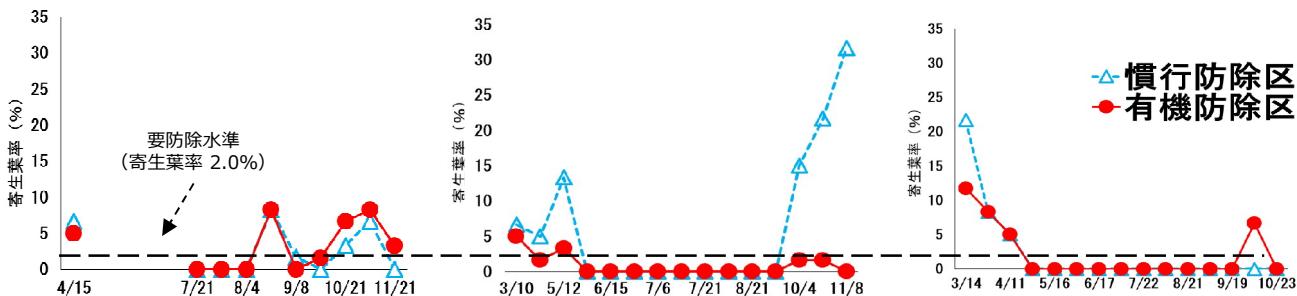


図1 有機栽培移行期間中のカンザワハダニ発生推移（令和4～6年）

【研究チームのコメント】

○この防除体系を用いることで、多くの生産者の皆様により安定した有機栽培茶の生産に取り組んで頂けることを期待しています。

(八女分場 茶・中山間地作物チーム)